



# 令和6年度 車座集会 意見交換内容

|     |                         |
|-----|-------------------------|
| 日時  | 令和6年11月5日(火)13時から       |
| 場所  | 黒島地区コミュニティセンター 会議室      |
| テーマ | 黒島の未来について               |
| 出席者 | 地域参加者9名、市長ほか関係者4名 合計13名 |

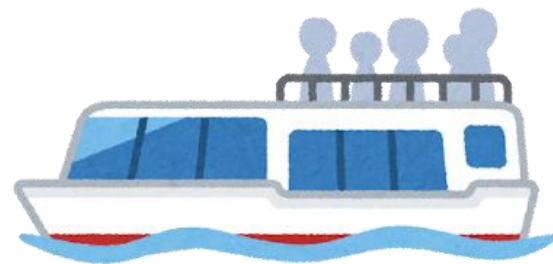
佐世保市 市民生活部  
コミュニティ・協働推進課

# 令和6年度黒島地区 意見交換内容(要旨)

テーマ:黒島の未来について

## 地域参加者

- 実質的には高齢者にやさしい島になればいいかなと思う。  
高齢化率がだいたい57%前後であるが、実質は住所を置いて島外に出られている方もいるため実際は60%くらいかなと…。そういったところで、足となる交通が便利になればよいと思う。  
もう1つは、一人世帯が60人前後いるので、そこに対しての見守りを強化できれば。この高齢者は畑仕事をしているので、特に熱中症で亡くなったりとかの心配もあるので、そのあたりを強化できれば。
- 高齢者から言われることでけっこう多いのが、一晚、二晩くらい、一時的に泊まれるところがあればいいなと。黒島で育っている人はほとんどが町の方に行くが、やっぱり帰ってきたいという人も多い。無理して帰ってきて家に住んでいる人もいるので、そういったところを市で何とかやってもらえないか。
- 75歳以上に1万円出ていると思うが、バス代やフェリー代も上がっている。そこを鑑みて金額を調整してくれないだろうか。
- 人が働ける場所がないから人口が減っている。人が働けるような産業ができればいいなと思う。定期船についても、向こうに働きにいけるように便数を増やせば人口が減らないでいいのではないかな。



# 令和6年度黒島地区 意見交換内容(要旨)

テーマ:黒島の未来について

## 地域未来共創部長

- 今年の5月、黒島から公共交通に関する対策についての要望書が提出された。  
40年前に事業者が廃業して以来、高齢者や車の移動手段を持たない方々同士で島内の移動を共助で支えてきたが、高齢化により難しい状態になってきたことが背景にある。
- 今いろんな仕組みが国の方で検討されている。法改正もあり、ライドシェアの中でも公共ライドシェアという仕組みができ、区域は限定になるが、通常お金をもらって人を送迎する場合にはタクシーの免許を取り、緑ナンバーでないといけないところ、白ナンバーのままで、一種免許を持った方が運転し、いろんなところへ送迎することができる仕組みができた。  
黒島だけではなく、交通不便地区は市内にたくさんあるので、こうした制度を、地域の方々のご理解を得ながら導入していきたいというふうに考え、今検討しているところである。
- 黒島に関しては、今グリーンスローモビリティもあるが、国の実証事業、補助事業、補助金をもらって実証実験ができるという仕組みがあって、これをやってみたいと思っている。  
既に地域交通課の職員がアンケート調査をさせていただいていると思うが、そのアンケートの結果を踏まえ、国の事業採択が必要になってくるので認められればということにはなるが、できれば来年度、実施に向かっていければと思っている。  
これがうまくいけば、今非常に不便を感じている、移動手段がない方とか高齢者の方とかに交通手段を提供できる可能性は十分あると思っている。



# 令和6年度黒島地区 意見交換内容(要旨)

テーマ:黒島の未来について

## 地域未来共創部長

- 黒島は世界遺産なので、観光の面で産業として伸びしろがある。そこはしっかりと手を入れていく必要はあると思う。  
本土との交通往来について、今は黒島旅客船で運行しているが、これは欠損補助といって、赤字の部分に対し、市からも補助金を出している。運航料金の決定プロセスというのが国の方で決まっているので、それにしたがって料金を設定し、赤字の部分を補助するという仕組みでやっている。  
便数を増やすということは、制度上はたぶん可能だと思うが、おそらく人の問題もあったりする。それだけの需要があるかどうかというのを船会社としては見るだろうし、それに必要な人員とかも必要になってくる。  
今は、現在の便数が船会社としては適切ということでやっていると思うので、例えばこれがさっき言った観光とかで需要がどんどん出てくるとか、本土から働く人がたくさん住まわれるとか、そういう状況が予想されるのであれば、増便もできるのかなというふうに思う。  
そのため、現段階では増便は難しいという感じがする。

## 市民生活部長

- 保健福祉部からの情報提供ということで、85歳以上の独居老人の方、65歳以上の方で身体状況に何か問題がある方向けに、緊急通報システムが市の方で用意されている。  
利用料はかかるが、緊急ボタンを押すことで、事前に緊急協力員となっている2名の方にコールが行くというシステムである。
- (75歳以上への助成について)宇久でも同じような意見があった。宇久は通院の補助(宇久地区高齢者通院助成)で黒島は交通の助成(敬老特別乗車証)のことと思うが、保健福祉部には伝えておく。
- (高齢者の短期宿泊について)担当部署が保健福祉部の長寿社会課というところになる。令和8年度まで介護の計画があって、その中では黒島に限らず、新しい施設等は作らないという計画にはなっている。  
今後の状況や具体的な需要というのが、今後の計画に反映されると思うので、担当部署に伝えておく。皆様からもぜひお伝えいただけたらと思う。

# 令和6年度黒島地区 意見交換内容(要旨)

テーマ:黒島の未来について

## 地域参加者

- 2児がいる。漁師をしており沖に移動すると戻ってくるまでに2時間かかる。そういうときに子供が熱を出したらどうしたらいいのか？例えば土曜日とか、医者も看護師もいない。これが子どもを育てやすい環境といえるのか？  
また、雨が降るとどぶ水みたいな水道水が出る。
- 若い世代の方に黒島に帰ってきてもらって、黒島で仕事をしていただいて、子育てしやすい島にできればいいと思う。医療の連絡網のようなそういう体制を作れば。



# 令和6年度黒島地区 意見交換内容(要旨)

テーマ:黒島の未来について



2024.11.5 黒島地区

## 市民生活部長

- 情報提供として、水のろ過について、小型ろ過機を普及させようと今動いている。雨で濁った水も、そういう装置を通すときれいな水になる。そういうものを紹介する意見会もあるようなので、そういう場を活用してほしい。
- (医療に関する)島の連絡網もすぐにでも作っていたきたいと思っているので、よろしくお願いいたします。



# 令和6年度黒島地区 意見交換内容(要旨)

テーマ:黒島の未来について

## 市長

- 今非常に燃料の高騰などがあり、宇久の場合は国境離島の絡みもある。  
医療福祉に関して、本土との差ができないようにしっかりと考えてやる必要があるので、内部で検討して対応していきたい。
- 救急医療について、宇久の方でも同様の話が出て、救急搬送体制はしっかりと対応をしていきたいと考えている。  
通院についても、島の場合は対応が難しいところがあるので、今後はオンライン診療なども進め、遠隔でもしっかりと診察ができるような体制に取り組んでいきたいと考えている。  
本土も中心部から離れたところについては医者がいないという地域も増えてきている。健康とか命とかに関わる一番重要なところなので、医療の格差というものができるだけないようにしていきたいというふうに思っている。



2024.11.5 黒島地区



# 令和6年度黒島地区 意見交換内容(要旨)

テーマ:黒島の未来について

## 地域参加者

- 消防団の部長をしている。そこで、人材の派遣は  
かなり難しいと思うが、せめて資機材の確保をして  
ほしい。この間の民家火災でもホースが足りな  
かった。防火水槽が遠いため。  
ポンプなどの設備類への対応であつたらすぐで  
きるのではないか。設備対応をしてもらえれば、  
あとは今の消防団に何とか頑張ってもらえばい  
けるのではないか。人材派遣はたぶん無理だと思う  
ので。きちんと揃った設備でパフォーマンスでき  
ればと思う。
- 消防団の今後が心配。黒島に限らず、他所でも消  
防団員の確保が難しいと聞く。黒島は人口が減っ  
てきて、高齢者が増えてきている。将来、消防団  
に頼っていくことが出てくるのではないか。その  
頃に消防団はあるのか…。何か解決法はあるの  
か。



# 令和6年度黒島地区 意見交換内容(要旨)

テーマ:黒島の未来について

## 市民生活部長

- 情報提供として、黒島において、過去10年間で消防団が出動した火災の件数は4件ある。平成30年が林野火災、令和3年が2回ほど、一番近いので去年(令和5年)の9月に建物火災、これが一番被害が大きくその時も消防団が出動し消火をされている。  
消防団の成り手不足は、離島だけではなく市全体、たぶん全国的な問題だと思われ、消防局も大きな課題として認識している。



- 黒島についての何か今後の対策ということを知ったところ、女性の防災クラブが70名いるということで、女性でも使用可能な軽量の資材、小型ポンプを利用することで、女性にも積極的に参加していただきたいという考え方が一つ、それから、団員の定年年齢の見直しの検討がある。今は65歳以下だと思う。  
また、教職員などにも入団をお願いしたり、若い頃からの教育を通じて防災意識を育むことが重要で、学校教育との連携により地域の防災活動を皆で進めていこうという意識を早期に植え付ける。このような取り組みをできることから始めて行くということであった。  
現在入団していただいている方の活動継続への取り組みや、支所の職員の入団促進など、そういったご協力はさせていただきたいと思っている。

# 令和6年度黒島地区 意見交換内容(要旨)

テーマ:黒島の未来について

## 市長

- 市民生活部長から話があった通りであり、その他にも島に勤務されている教職員の皆様方への入団促進をするということも必要だと思っている。消防団員数不足の話は全市的な課題であるのが実情である。

今後の消防のあり方については、将来的に期待される様々な技術的な進歩も含めて考えていく必要があるんじゃないかと、常々消防局と話をしている。

例えば、ドローンなどは、現在では災害時の様々な場面での活用が期待されているが、技術も進み、様々な消火剤の研究も進められている。そのような消火剤を使用して、ドローンで応急的な第一次消火というものができないかなど、遠隔地におけるドローンの活用の可能性を模索することも大変重要であると思っている。

できるだけ消防団の皆様方の負担を軽くするような形で考えていきたいと思っている。

いずれにしても、やはり現在の消防団の皆様方に頼るという部分が多くあるが、できるだけ消防団が確保できるように消防局と連携をしながら努力をしていきたいと思っている。

- 消防設備の確保については、持ち帰って検討する。



2024.11.5 黒島地区

# 令和6年度黒島地区 意見交換内容(要旨)

テーマ:黒島の未来について

## 地域参加者

- 島に花がきれいな場所、花畑があるといいなと思う。  
観光客はもちろん、島の人も花をいじったりするのが好きだという人も多いので、そういう花をいじりながらみんなで話をしたりとか、そういう場所ができればいいなと思う。  
また、島民の人が気軽にに行けるカフェみたいな場所があれば。カフェ美咲はどちらかというと観光客向けで、敷居が高い。島民の人が来やすいようなカフェがあれば、お年寄りの方も来て一人で寂しい気持ちにならなくてすむ場所があったらいいなと思う。
- 地域の方が気軽に集える場があればいいと思う。  
カフェにこだわらずに、フリースペースができれば。例として、東彼杵に「うみのわ」という複合施設があり、カフェスペースもあるが、コインランドリーや、そこで洋服の直しができたり、子どもが遊べるフリースペースなどがある。  
黒島では、土日学校がやっていない時に子供が遊べる場所が限られている。土日に子育て世代の方々が時間をつぶせる場所があればいいなと思う。
- 島豆腐やふくれまんじゅうなど、黒島の食文化について。作っていらっしゃる方がだいたい80歳前後。文化継承できるようなしくみができればということと、食品衛生の許可が取れている加工場があればと思う。



# 令和6年度黒島地区 意見交換内容(要旨)

テーマ:黒島の未来について

## 観光課長

- 黒島は島自体が世界遺産となっている。蕨展望所は花いっぱいにしてもらって本当にありがとうございます。
- ウェルカムハウスから上がって、黒島神社の手前の畑付近に花が植われればいいと言われているんじゃないかなと思う。通年とおして花が咲いたらいいと思っているし、夏の場合は管理が難しいので、例えばパンジーとかそういう花が植わってればいいのかなと思っている。
- 販売関係について、黒島ウェルカムハウスは、平成26年度に地元の方から要望があって、平成27年度に設置をし、平成28度の4月から正式にオープンをしている。  
オープン当時、黒島観光の受け入れ拠点ということもあり、地元の農業・漁業と連携した物販施設ができないか、2次交通が提供できる受入れ拠点としてならないか、ということで整備をさせていただいているので、現在延べ100を超える商品の方を、地元の方々と一緒に取り扱っているところである。
- 豆腐販売について、食品衛生上、豆腐を運んで地元持って帰るとするのは非常に厳しいと思っている。やはり黒島に来て黒島で食べていただくということで、取り組みを進めているところである。
- 黒島を訪れる方は、世界遺産、最近では日本遺産、それから島旅であったり、アニメなどの口ケ地を見に来られるというのが多いと感じている。そういったところを今後の産業とかにもつなげていければと思っている。観光という立場の中でも、支援を続けていきたい。



# 令和6年度黒島地区 意見交換内容(要旨)

テーマ:黒島の未来について

## 市民生活部長

- 今、コミセンの建替えを行なっている。  
その施設には、ちょっとしたくつろげるスペースであるとか、和室だけじゃなくて講座室とか、大きな会議をする時には大部屋を借りてコーヒープレイクをしながらみんなで島のことを考えると、自由に使っていただけるんじゃないかと思っているので、楽しみにしてほしい。
- 新しいコミュニティセンターは、みんなでコーヒを飲むとか、販売をすることもいいかと思うが、まずは皆さんがお知り合いになってもらえる場所に使っていただければと思っている。  
その使い方をコミュニティ職員にご相談ください。他のコミュニティセンターは結構競争率が高かったりするが、黒島は利用率が少ないので、その分自由に使える範囲があると思う。
- もう一つ、コミュニティセンターで変更したのが料金設定であり、1部屋普通は100円で済むのが、営利目的で利用される時は20倍の2,000円とか非常に高く取っていた。これを3倍に落とした。20倍が高すぎて利用される方も少なかったし、市としても稼働率を上げたいという思いがあった。  
調理室とかは、豆腐作り体験などに使えるんじゃないかと思うので、皆さんで利用方法をいろいろ自由な発想で考え、作ってほしいと思っている。



# 令和6年度黒島地区 意見交換内容(要旨)

テーマ:黒島の未来について

## 市長

- 本庁13階のラウンジについて、見晴らしが非常にいいので、弁当やお茶を飲んでいただいたり、勉強や読書をしていただいたり、またお仕事をされる方は商談をしていただいたり、非常に有効的に使っている。  
特に高校生が来て、ミーティングをしたり、また勉強をしたりしてもらっているのは良かったと思う。  
各地域のコミュニティセンターの建替えが進んでいるが、そのような幅広い世代の方が来て憩えるような場所を作りたいというふうに思っている。
- 黒島のコミュニティセンターはもうすぐ完成するが、利活用については逆に地域の方から声をあげていただいて、柔軟な対応をしていきたいと思っている。
- 産業という点で、今年の4月から佐世保市第7次総合計画後期基本計画がスタートし、最大の課題は人口減少と捉え、少しでも人口減少に歯止めをかけようということで策定した。

その中で「シティブランディングプロジェクト」というものがあり、要は佐世保の魅力というものを向上させていこうというようなことで、4つの柱を立てている。

一つが子育てで、子育て支援というものをしっかりとやっていくということ、もう一つには地域資源で、佐世保が持つそれぞれの資源、遺産を活かしてこれから地域の振興を図っていこうということ。もう一つは文化。文化はその地域の民度、市民の満足度のバロメーターだというふうに思っておるので、文化だとかスポーツだとか、そうしたものを楽しめるような場所にしたいということ。そしてもう一つは産業。やはり働く場所がないことには人は留まってくれないので、働く場所を作ろうと。これら4つの柱をうまく使いながら好循環で回して人口減少に少しでも歯止めをかけよう、というような考えを持っている。

黒島に当てはめると、黒島の教会、島全体が世界遺産の構成に入っているということで、この素晴らしい地域資源というものをいかに活かしていくかということが重要だというふうに思う。

# 令和6年度黒島地区 意見交換内容(要旨)

テーマ:黒島の未来について

## 市長

そういう意味では、一つは観光というのが大きな柱になるんじゃないかなというふうに考えている。そしてもう一つには、地域資源として海というのを抱えているので、漁業、水産業というものをどうやって再生をできるかと、そこにかかっているんじゃないかなというふうに思う。

- 高島ではNPO法人エスポという団体が設立をされ、地域の皆様方が一生懸命地域おこしをスタートしたところである。そうした中で、岐阜県の企業が、高島で水産業を活性化させようというような話もある。

黒島でも養殖業なども含めた水産業の再生というものが非常に重要ではないかというふうに思っている。そうした産業というものは基本的に地域の特性を活かしたものだと思うので、これから力を入れていく必要があるんじゃないかというふうに思っている。

需要が出てくれば交通のニーズもまた出てくるというふうに思うので、やはり産業の活性化というものは重要だというふうに思っている。皆様方のいろいろなご意見をいただきながら、この産業の活性化には努めていきたいという風に思っている。

- 今度新しい複合施設は、とにかく地域の皆様方に有効に使っていただきたいというのが私の思いである。

営利目的の話もあったが、まずは皆様方に使っていただかないと、造った意味もないというふうに思うし、地域のコミュニティセンターや公民館は、どうしても使用する人が限られているのではないかという印象がある。特に若い方はなかなか寄りにくかったんじゃないかと思う。

できるだけ若い方にもどんどん使っていただきたい。子どもを連れてきて、ゲームだとかおもちゃなどをみんなで持ち寄って遊ぶということも楽しいだろうし、そういうふうな形で、どんどんと利用してもらえればありがたいと思う。

# 令和6年度黒島地区 意見交換内容(要旨)

テーマ:黒島の未来について

## 地域参加者

- 溝蓋の件。この間の雨では大変だった。溝蓋を全部越してしまった。その水が民家の方に行く。溝蓋だけはなんとかお願いしたい。
- 通学路も危ない。歩道がない。中学校までの歩道しかない。
- 市道清掃が高齢化で非常に困難になっている。機械でできればよい。せっかくの世界遺産の島なのできれいにしていきたい。機械を導入できないか。
- 黒島は空き家が多い。長く住まないで2、3年ですごく傷む。そうすると定年前くらいに帰ってきたいと思う方がいても結局住むところがない。また水の問題もある。予算的に難しいところもあるかもしれないが、集合住宅を作ってもらえれば。



2024.11.5 黒島地区



# 令和6年度黒島地区 意見交換内容(要旨)

テーマ:黒島の未来について

## 道路維持課 係長

- (溝蓋や通学路の危険性について)要望をいただいている件と認識している。帰ってから確認し、個別に連絡させていただいて、対応状況だとかをまた改めてご連絡さしあげたいと思う。
- 市道の清掃等について、現在、黒島地区では約3.3万平米を8地区(団体)に、草刈り奨励金という形で協力頂いているところである。  
もちろん今後については、単価の見直しや、業務範囲について困難になっていた区域は個別に相談を受けるなど協議しながら、皆様と一緒に頑張っ  
てやっていきたいと思っている。
- 機械の導入の件は、道路維持課で話をしたところであるが、やはり安全性が担保できるのかという懸念があり、今のところは導入は考えていない。  
いずれにしても、地域の皆様方と話をしながら相談して進めていきたいと思っている。

## 地域未来共創部長

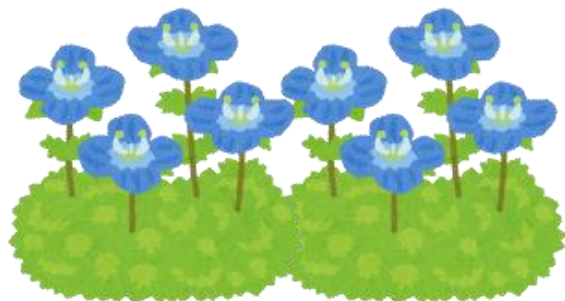
- 空き家はあるけど使えないという点について、一つはまず需要があるのかどうかという問題がある。整備はしたけど誰も住まないということがないように、そこは確認が必要と思う。  
もう一つの問題は、不動産屋的な機能がないのが問題と思っている。宇久でアクションプランという計画を作っているが、その中で不動産屋的な機能を持たせられないかというのを検討している。  
現在、宇久のほうで検討している内容としては、まず空家がどれくらいあって、どれくらい手を入れれば住めるのかとか、住みたいという人とマッチングしたりとか、それをやってくれる人というのがない。まず物件の把握と管理、そして需要と供給をマッチさせていくというような機能を、できれば仕事として持たせることをチャレンジしたいと思っている。  
宇久での検討は一つのモデル的な取り組みとして、何かヒントが得られればいろんなことにつながっていくという感じもしているので、そこは検討していきたいと思っている。

# 令和6年度黒島地区 意見交換内容(要旨)

テーマ:黒島の未来について

## 市長

- (溝蓋や通学路の危険性について)前回来た時もこの件が出て、計画的にやるというような話だったが、改めてこの前の大雨とか、今通学路の話も聞いて、優先順位をある程度考える必要があると思うので、まずどこをやっていけばいいかということも含めて、また改めて話をする。



- また、これから地域の活性化を図っていくときに、行政だけでは事足りない部分も出てくる。行政の力ももちろんだが、行政と地域、また民間等、様々な業種の方々、総出で力を合わせてやっていかないと、地域の活性化というのはできないんじゃないかというふうに思っている。これを一つのきっかけとして、またこれからいろいろな意見交換もさせていただいて、お互いが力を合わせて黒島をよくしていこうと、そういうふうな方向を向いていかないと、やはり地域の活性化はないというふうに思っている。  
特に島については、皆様方、本当に危機感を持たれながら、また日頃から本当に一生懸命頑張っていたきながら、この島を守っていただいていることに本当に感謝しているので、これから大変厳しい時代ではあるが、ぜひ力を合わせて、これからの黒島を少しでもよくしていきたいと思っている。